

開成の杜

第71号 ● 2006年10月1日 ● 郡山女子大学大学院 ● 郡山女子大学 ● 郡山女子大学短期大学部 ● 郡山女子大学附属高等学校 ● 郡山女子大学附属幼稚園

● 発行所 / 学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ● 発行人 / 学園長 関口富左

創立60周年記念第2号



杜はいいね、みんな一緒

(撮影 山口郁生)

時の過ぎるのを止めることは出来ない。また、時が早まって欲しいなどと言ってもどうにもならない。人は、刻々と時が過ぎてゆく時の僕(わたし)のようでもあつて、しかも年を重ねると、無惨にも無気力になる。しかし、若い時は、ときには時を乗り越える勢いもあつたように思えるが、それは、若さのなせることであつたのだと振り返る。

しかし、学園での来し方を思い見るに、いつしか六十年もの歳月を閲し、改めて我が身を顧みる。「女子の高等教育」を考へての所為であつたことを思う時、若い時には現在と未来が密着していたのかと改めて思う。では、何故年を重ね、老いるということとは心身不如意、心身隔離、こんな用語もないが、思い見るとそのような状況である。

しかし、日々、学生・生徒達の在り様を見、また接していると、そこに、えもいわれぬ泉が湧き出ずるように、表情に、態度に、輝きがあり華やかさがあつて、美しい!!と思わず口ずさみたくなる。思えば私は、六十年もの長い年月の中で、この生きのよい、弾力のある我が子や孫にも等しい若者と共に過ごしてきたのだと、改めて現実を正視して、何と幸せの継続であつたことかと思ひ見る。若者に囲まれて、若者と接して、こんなに永い間生活を



学園長 関口富左

創立六十年、若者と共に

共にしていることの現実を改めて気付く昨今である。

「教師と学生、生徒。」という相手方から見れば、確然と距離をおいている思いであらうが、私の心は、若く元氣な笑顔に接すると、それこそ心の泉から沸々と湧き出する美に浸る。このようなことは、何と幸福なことかと、最近とはみにその思いに気付く。

六十年も、ありがとう。何と幸せな日々であることかと沁々と思うのである。

若さの美しさ。若い時は思えない我が身であつたが、こうして同じ場所、いつも若者と共にあることについて、改めて未来を抱いている若者の美しさを感じる頃である。

六十年の間、若者と同じ場を持ち、心を交えることによつて、若者の緊張したその表情に接し、その美しさと、善美さに気付く。若者の本質性を窺い知ることが、敬虔な思いが醸成され、教育の真価をそこに知るのである。更に、それを思い見るうちに、人間同士としての融和の思いが湧く。代々の若者から、六十年ものなかで幸せを得ることは、これこそ教師のみが得られる至福の思いである。

改めて今、時の包摂の中で、私は教師として、生徒・学生と共に居る教育の園の真価を得、豊かに過ごしえられていることを想いつける今日この頃である。

開成の杜も、大空も、若者の将来の発展と、学園の充実・進展を見護り給え。

「自然を凝視(みつ)めて、師としよう。」

(創立六十周年の時を迎えて)

礎を築きて60年

学校法人 郡山開成学園 さらに充実のとき

平成18年4月、学園は創立60周年を迎えた。桜花のもとで、大学院、大学、短大、高校、幼稚園の学生・生徒・園児、教職員の計2,700名が学園の誕生日を祝った。また、10月24日には多くの来賓をお迎えしての祝賀会が予定されている。半世紀を乗り越え、さらに歩んだ60年の歴史。揺るぎなき磐石の上に建つ学園は開拓から漸次、拡充、安定への道を辿り、円熟期へと入る。

更なる発展を願いつつ

学校法人郡山開成学園理事長・学園長代理 関口 修



創立六十周年の節目を迎え、学園長先生の御苦勞と、その経緯が走馬燈のように巡っているのは、本学園に長らく勤務した方々、皆同じではないでしょうか。

六十年と言え、人生の還暦に相応しい素晴らしい学園に成長しました。

此処、開成の地に、物を開きて務めをなし、先人の英知に教えを請い、自然

を凝視して師としながら、女子教育の本質を探るなかで、家政哲学が創出され、それを中心として、教育の本質が追求されて来ました。

今、此処に六十回の実りの秋を迎え、卒業生各位が多様な分野で活躍している様子に、教育の実りを実感し、更なる充実、発展を願い、努力を継続している教職員への期待は大きいものがあります。

我々に課せられた責務は、学生のためであることは勿論ですが、卒業生の名誉と母校に対する誇りが堅持されるよう不断の努力が求められます。

学園は毎年耐震工事を実施し、今年には図書館、附属高校特別教室棟が完成し、本館、芸術館、図書館を繋ぐ渡り廊下も完成しました。環境省

によるエコアクション21の認証を取得し、環境教育の素地も完成しつつあります。

創立三十周年頃の大学案内冊子に「環境は人をつくる」と記されていました。この環境のもつ意味は優秀な教職員、優れた施設設備が醸し出す雰囲気であり、それらは教養ある学生の育成には不可欠です。

芸術鑑賞講座、教養講座等々、様々な催しが思慮深い感性を育み教養へと誘う本学ならではの教育の総合性として特筆されるべき内容であります。

創立当初、学園には素晴らしい先生方が居られました。平瀬先生、藤井先生、飛田先生ご夫妻ほか、ここに残る方々が沢山おられました。先生方のご冥福を祈りながら、平瀬先生が残された「力を尽くして足跡を消す」即ち、「盡力没跡跡」は建学の精神と共に本学関係者全てに引き継がれることでしよう。

新しい時代への飛躍を祈念



郡山開成学園家族会 会長
金澤 裕

この度、学校法人郡山開成学園が、創立六十周年という良き節目を迎えられたこと、誠にめでたくございます。心からお喜び申し上げます。

郡山開成学園は、安積開拓精神の地開成の杜に、戦後の荒廃した世相の中で、女子の高等教育の普及と向上を図り、社会の安定に寄与する為、「尊敬」「責任」「自由」を建学の精神とし、昭和二十二年四月教養教育を重視した郡山女子専門学院を創設されました。以来、学部・学科の開設改称などを経て、現学園長関口富左先生を中心に、

永年多くの教授先生方また関係職員の方々の、熱烈なる教育愛に支えられ、時代の動きに応じて、常に確かな歩みを続けられました。更に地域社会の中心的作用を十分に果たし、一貫して、子女の教育充実向上の為尽くされて来た事は、教職員・保護者・関係各位の協力の賜物であります。そのご尽力に對しても心から敬意を表するものであります。

さて、学園では、記念事業として、「食育」をテーマに新たな学問の研究が始められました。今日、死亡原因の六四・八%近くを占める生活習慣病の低年齢化が進行しており、食糧自給率の低下、朝食抜き、栄養バランスの崩れ、食の乱れによる青少年の犯罪多発化などが問題となり、昨今食育基本法が制定され、食育は今や国民運動として展開されるようになっております。

この様な時代変化の中、いち早く学園屋上に菜園を完成され、日夜研究に取り組まれ、時代の最先端を進まれて

いる状況は、学園に関する者として、喜ばしい限りであります。

「修己修身の書である『小学』に「修身、齊家、治國、平天下」の教えがあります。ここで人は自己を修め、家族を齊え、國を治め、世の中を平和に出来る、と表している、言われております。この中で、最小集団家族での役割、家族による教育、家族の中の規律などが重要であり、家族での日々の習慣が大切になってきます。

今回の食育でも、正しい食生活を身につけさせる本来の場は、何を置いてもまず家庭です。家庭における食事の躰が大切になってくると思います。更に食育がしっかりと行かないと、教育基本「知育・徳育・体育」が崩れてしまうとまで、言われております。

郡山開成学園は六十周年の記念すべき年を迎え、輝かしい伝統を守り、育み、新しい時代への飛躍の出発点とされる事を祈念申し上げます。

恵まれた環境の中で



附属幼稚園父母会 会長
宮川 幸雄

郡山開成学園創立六十周年、誠にめでたくございます。

戦後の厳しい時代に女子の高等教育の普及と向上を目指し、郡山女子専門学院を創設されましたことは、並々ならぬ苦勞であったことと思われまふ。この郡山において「尊敬責任・自由」の建学の精神を教育目標とし、女子総合教育機関としての役割を担ってまいりました。

附属幼稚園におきましては「よくみるよくきくよくかんがえて」をモットーとし、子供たちが自ら伸びようとする手助けをしていただいております。

このような恵まれた環境の中で子供たちが明るく、健やかに成長する姿を見ることができ、大変感謝しております。これからも貴学園の益々の発展を祈念申し上げます。

学園発展のために



郡山女子大学同窓会 会長
名倉 美恵子

学校法人郡山開成学園創立六十周年誠にめでたくございます。同窓会を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

学園も、私が卒業して三十年が過ぎ、充実した施設・設備などの恵まれた環境や、対外において、生き生きと活躍している学生達の様子を目にするたびに、同窓生として誇りに思います。

同窓生も、平成十八年三月まで三千四百五十四名となりました。母娘で同窓生の方や、各分野において地域社会で活躍している同窓生と、これからの学園発展のため貢献できるようにしていきたいと思っております。

最後に、本学園の今後益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

母校 永遠の故郷



郡山女子大学短期大学部 同窓会会長
安斉 悦子

学園創立六十周年を心よりお祝い申し上げます。

五十周年、五十五周年と感動と充実の時を過ごさせていただきましたが、この度の六十周年は更にそのことを強く感じております。

同窓会総会や支部の総会で各方面で活躍の同窓のみなさんにお会いすると、みなさんが「一様に『大学がここにあって良かった。創って下さってありがたかったです。』と、学園長先生にお話しされております。また、今、どのような環境にあっても、心の故郷、青春の歓びを胸に涙と共に校歌を合唱する時、「校歌」の素晴らしいと六十周年の重みを感じます。

激変している社会環境の中にあつて、学園の充実発展は目を見張るばかりです。学園がますます光り輝いて、同窓生の憧れ、永遠の故郷であることを願っております。



学園の全景(2004.6.1撮影)

安積開拓の地 開成の杜に

創設者 関口富左 教育学博士



1913年東京都出身。のちに福島県郡山市に永住。1933年和洋女子専門学校(現・和洋女子大学)本科、および家政研究科を卒業したあと福島県高等女学校教諭となる。さらに高等教育への資格を得る。

- 1947年 郡山女子専門学院を創設、女子の高等教育の普及向上に当たる。
- 1950年 学校法人郡山開成学園および郡山女子短期大学を設置。理事長、学長に就任。
- 1956年 附属幼稚園を開設。園長に就任。翌57年附属高等学校設置。校長就任。
- 1966年 郡山女子大学開学。学長就任。
- 1988年 勲三等宝冠章叙せられる。
- 1992年 郡山女子大学大学院開設。
- 2003年 学校法人郡山開成学園理事長職を退任、学園長、学長、校長、園長職を継続する。

この道

郡山開成学園の歴史は昭和二十一年から始まる。戦後の荒廃した世情を憂い、女子の高等教育の普及と向上を目的に現学園長、学長関口富左教育学博士は、郡山女子専門学院を創設した。

の短期大学の一つとして認可されたものである。引き続き附属幼稚園を併設。昭和三十一年には附属高等学校を新設して、五年教育の連携を図った。さらに高大連けい七年教育の場として郡山女子大学を誕生させた。そして、平成四年の大学院修士課程、平成八年博士(後期)課程の開設をもつて学園構想が確立され確固たるものとなった。

建学の精神

学園は建学に当たり建学の精神として「尊敬・責任・自由」を定めた。お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創ること。そして他者

人間守護の家政学

本学の学園の中心にあるものは家政哲学である。関口富左学園長は家政学に哲学を求め、疑問と探究で模索した。その確立まで四十年を費やしたが、ヒントとなったのはドイツチュービンゲン大学、O・F・ボルノー博士の哲学「人間は住むものである」という「被護性」である。人間守護の行為、技術こそ家政学の本義であるとその理論構築に向けて家政学研究者が

においてそれを認めること。人間として存在するためには責任ある行動で社会への自覚をもちうる。つまり学園の規則を守りながら、個性を重視し、互いを理解する(個)の確立と(他)との協調をもち、自主、自立できる女性としての人間育成を図るのを目的とした。

そして、感動の教育を基本とし、感性と知性の融合として、「芸術鑑賞講座」と「教養講座」を実施し、芸術文化教育を必須とした。

近年は親が子を虐待し、子が親に危害を加える。他人を監禁して反省も無い嘆かわしい事件の続発に社会が揺れている。今こそ(他)との協調、美しい私を創る(こころ)が必要なのである。



創学館全景

関口学長の下に集まった。後に「郡山学派」と呼ばれる研究集団であるが、研究は、人と物との係わりにおいて特色ある方法論の展開を措定し、帰納的に検証を進め独自の研究方法を生み出した。哲学的基盤をもった新しい家政学の誕生である。「人間守護の家政学」は国際家政学会において高い評価を受けている。

本大学が「人間生活」を科名にしたのは日本で初めてである。郡山女子大学に「人間守護の家政学」あり。この研究成果は後に大学院博士課程設置に大きく貢献し、本学独自の家政学博士誕生へとつながるのである。

道は続く

大学・人間生活学科は本年度から新たにコース制をスタートさせた。本学家政学の人間守護理念を実現することによって社会の充実、発展に寄与することを目的としている。

人間生活学科での新しい展開である。

◆生活総合コース よりよい人間生活の充実をめざし、人と物とのかわりにおいて、人間生活を総合的かつ専門的に学ぶコースである。

◆福祉コース 福祉生活の充実のために、福祉の本質を究め、福祉の理論と実践を学ぶ。

◆建築デザインコース 人間生活の基本である住むことについて、その本質を究め、高度な専門的理論と技術を学ぶ。特に、このコースでは、一級建築士および二級建築士の受験資格、インテリアプランナー、インテリア設計士、建築設備士、商業施設士等の試験受験資格等取得できる。

ちなみに東北、北海道地区の女子大学でこのような資格を取得できるのは本学のみである。

道は続く。内容豊かなカリキュラムをもつてより拡充した基盤の上に留まることなく未来への道は続くのである。

創立六十周年おめでとうございませう。これまでの歴史と伝統を創つてこられたのは、学園長先生はもちろんですが、先生や職員の方々の並々ならぬ努力と、卒業されたすばらしい先輩方の力だと思ひます。私がこの学園に入ると感じる暖かさや、学生の自信に満ちた姿を見るたびに「良い学校だな」と感じます。これからは、百年、二百年、三百年の式典も可能ではないかと思ひます。社会の悪癖に染まることなく、これからも良い教育を続け、社会に素晴らしい女性を送り出してください。



一級建築士への道ひらくデザインコースの授業風景

いつまでも私達のこころに



郡山女子大学附属高等学校 同窓会会長 佐藤 廣子

学校法人郡山開成学園の記念すべき創立六十周年を迎えられましたこと、同窓生一同心よりお祝い申し上げます。ここ開成の地のすばらしい環境の中で楽しい学園生活を過ごし、全国各地に住んでいる同窓生の数も二万二千八百二十一名となりました。これも偏に、学園長先生や恩師の陰に陽に温かいご指導や励ましを頂き、実りある三年間を送る事が出来た事に感謝申し上げます。時折、友人達とあの頃の思い出を語り合い、口ずさむ校歌に学園長先生の大きな愛を感じます。



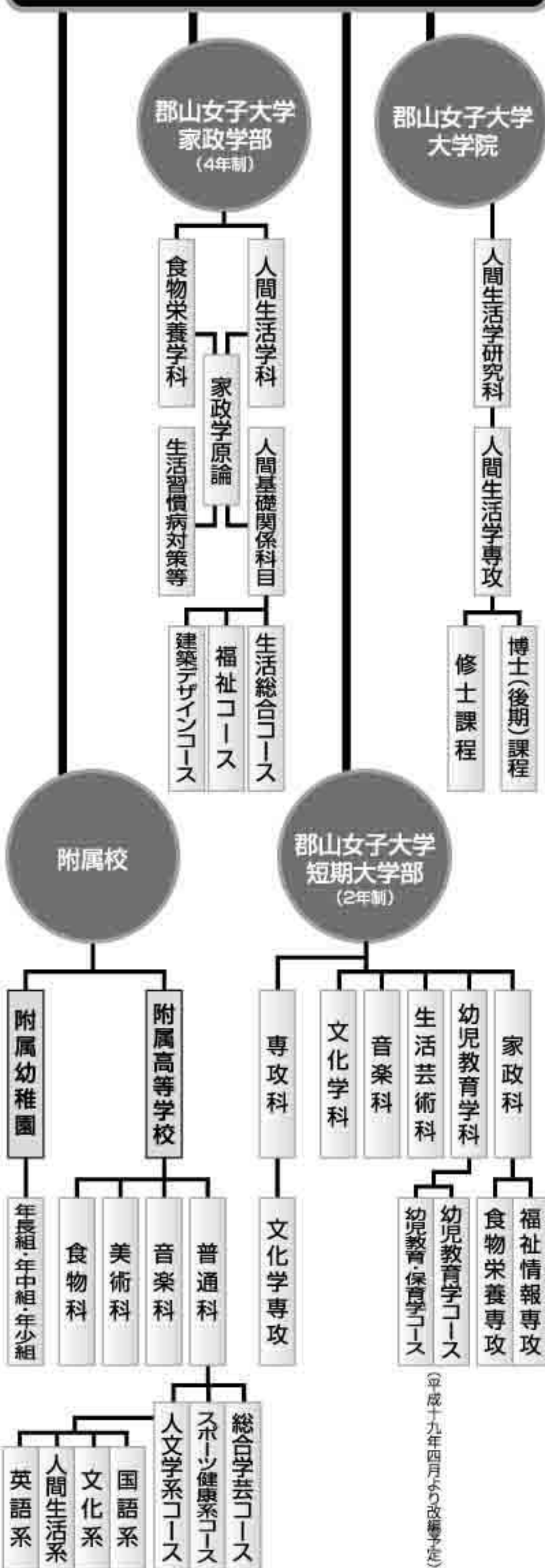
附属幼稚園同窓会 会長 種橋 直純

二百年、三百年式典を祈つて
創立六十周年おめでとうございませう。これまでの歴史と伝統を創つてこられたのは、学園長先生はもちろんですが、先生や職員の方々の並々ならぬ努力と、卒業されたすばらしい先輩方の力だと思ひます。私がこの学園に入ると感じる暖かさや、学生の自信に満ちた姿を見るたびに「良い学校だな」と感じます。これからは、百年、二百年、三百年の式典も可能ではないかと思ひます。社会の悪癖に染まることなく、これからも良い教育を続け、社会に素晴らしい女性を送り出してください。

私も微力ながら、この学園に関わっていることを誇りに思っております。学園長先生はじめ、皆様方のご健勝と、郡山開成学園の益々の発展を祈念致しております。

学園の組織図

学校法人郡山開成学園



学園は五十周年から六十周年

さらに未来へ確かな歩み

教育の本質を求め
更なる発展を

郡山女子大学
郡山女子大学短期大学部
副学長
山田 幸二

学園創立五十周年を十年前に祝い、「尊敬 責任 自由」を建学の精神とした教育を確認した。その折、哲学者梅原猛先生と科学者西澤潤一先生の対談「学問の行方―人間生活を基として」を拝聴し、学問とは、教育とは、についての認識を深め、創立六十周年に向けてのスタートとした。そして十年、創学館、ネーチャードーム等の施設や周辺の自然に恵まれた教育環境のもと、哲学的基盤をもつ新しい家政学―人間生活学―を中心とした、シラバスを基にしたわかる授業、感性と感動の教育、情報教育を柱として充実した真の教育活動を展開した。その成果は大である。と評価できる。二十一世紀になり、少子高齢化、生活の高度化と複雑化、専門化、情報化、グローバル化が進展している。このような社会環境において本学園は、建学の精神を具現化するため、人間形成、高度な専門的知識や技術の伝授、知的生産、知的財産の人間生活への還元などを特色ある教育として創立百周年に向け、更なる発展を願っている。

大学院この十年さらに未来へ



大学院
主任教授
影山 彌

本大学院人間生活学研究科人間生活学専攻修士及び博士(後期)課程は、関口富左学長が日本で初めて確立された「家政哲学」による新しい家政学のパラダイムに基づき、新しい時代における人間生活の充実、向上をめざして、特色ある教育と研究を、開学以来これまで着実に実践してきたと言える。院生の研究動向について言えば、修士課程と博士課程との連携の中で、研究対象領域は家政学原論、家族、家庭教育、高等学校家庭科教育、生活福祉、生活経営、衣生活、食生活、住生活、環境など多岐にわたり、また、研究の進め方として、いずれの研究も、本学家政哲学による「人間守護」を理念、生活の充実、向上を目的、無記性的研究方法から使用価値的研究方法への展開を研究方法とする。独自の本大学院研究科にふさわしい研究を進めてきた。成果の一つとして平成十五年と十七年に合わせて、六名の家政学博士を世に送ることができた。

さらなる充実向上を



人間生活学科
主任教授
影山 彌

昭和六十一年四月、全国に先駆けて開設された本学家政学部人間生活学科は、関口富左学長が半世紀以上にわたってなされてきた家政学原論研究に基づくものである。すなわち、新しい家政学としての人間生活学という、創造的な学問の構想を大学教育において具現化したものであると言える。かくして、人間生活学科は、開設以来これまで「人間守護」の理念に基づき、人と物とのかわりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を守り、一層向上させるために、他の分野の学問をも駆使して、人間生活について総合的かつ専門的に学ぶ学科として、学生の教育と研究を着実に進めてきたところである。生活経営、生活福祉、衣食・住生活、環境の各部門にわたる、もしも会発表及び卒業研究の充実の中にその成果の一端が見られる。

食物栄養学科の十年



食物栄養学科
副主任教授
廣井 勝

食物栄養学科は、当初の定員は三十名であったが、定員増により八十名となり、編入者も含めると学生数は三倍となり著しい発展をとげている。本学科の目標は、食にかかわる領域を広く教育、研究等、食生活の多様化する中で、高度の専門性を生かし多くの人の健康維持増進に貢献し得る管理栄養士を養成することである。

個々の生徒の伸長を求めて



附属高等学校
副校長
川名 忠造

郡山女子大学附属高等学校は、昭和三十一年に大学の附属高等学校として設置された。創立当初は普通科だけであったがその後、短期大学との連携を求め高等学校の多面性と職業性に対応するため音楽科、美術科、食物科を設置した。さらに平成十五年には、一人ひとりの個性や特性を高めることを目的として普通科の中に一年次からコース制を導入し、普通科は総合学芸コース、スポーツ健康コース、外国語コース、自然科学コース、人文学系コースに分かれた。さらに人文学系コースは一年次から国語ことは系、社会・文化系、生活総合系の三つの系に分か

家政専攻から
福祉情報専攻へ

家政科福祉情報専攻
主任教授
石村由美子

家政専攻は、短期大学設立時より人間守護の理念の下に、最新の知識技術の習得と研究の場として、家政教育の先駆者的な役割を果たし、つつ広く地域社会に貢献してきた。この長い伝統の下に進められてきた家政専攻を改めて見直し、その変容に対応するため、社会の動向とニーズを見定めて、カリキュラムの改定を

時代の変化に対応



家政科食物栄養専攻
主任教授
近藤 栄昭

大きな変化と適切に対応した十年であった。その中で最も大きな変化は、コンピュータの学生一人一台無償貸与ではないかと思われ。多くの教材レポート作成がコンピュータ上で作成されると共に、伝達・集計速度のスピードアップが図られ、各情報をもパソコンとして扱い、その情報を組み立てる(創造する)喜びを日常的に体験することができるようになったことである。栄養士教育の中の献立作成やプレゼンテーションファイルの作成など、コンピュータは今後ますます利用の多様性が広く、深くなるものと思われる。

保育科―この十年―



保育科
主任教授
須田 良子

平成八年から十年を振り返ってみると、社会情勢の急激な変化に伴い、将来に保育界も激動の時代であったといえよう。具体的には、少子高齢化社会の進行による国の対策に基づく様々な施策によつて保育者養成の教育課程の改定や十八歳人口の減少により養成課程を根本から変える十年であった。本学保育科においても、そのような社会情勢の下で、平成十

生活芸術の歩み



生活芸術科
主任教授
大石 尚

生活芸術科は昭和三十年の学科開設以来、地方の美術教育や美術文化の向上に大きな役割を果たしてきたが、この十年間の歩みは、半世紀に亘る生活芸術科の教育成果を確認し、更なる充実発展を期した十年であったといえる。平成十六年に開催された「生活芸術科開設五十周年記念展」はそのことを端的に示すことのできた意義深い展覧会であった。

音楽科―この十年―



音楽科
主任教授
金子 泰三

音楽科は昭和四十三年に本県唯一の音楽科として誕生し以来三十八年を経過した。ピアノ、声楽、ヴァイオリン、管楽器、ラウト、クラリネットの各専攻コースを置き、実技科目では徹底した個人指導を行つて学生の個性を尊重し、資質の向上を図る教育を一貫して行つて来た。音楽を学ぶにはアカデミックな環境と優れた指導者のもと、学生が楽しく音楽に取り組める事が大切であり、さらに発展充実させて行きたい。

地域文化の発見と発信



文化学科
主任教授
野澤 謙治

一九八一年(昭和五十二年)、博物館や美術館、図書館などの文化施設で活躍する人材を育成するために全国の短大で最初に創設された文化学科は、二〇〇〇年に創設二十年を迎えた。卒業生は千八百余名を数え、その創設の意図は着実な成果をあげ、広く社会に有為な人材を送り出した。二〇〇二年、文化学科は設置以来

文学士の取得をめざして



専攻科
主任教授
野澤 謙治

二〇〇〇年四月、文化学科の基礎の上により高度な知識と専門性をさらに二年間かけて体系的に学んでもらおうとの意図のもと専攻科文化学専攻が設置された。専攻科のカリキュラムは歴史学を中心に専門性を体系的に学ぶことができるとともに幅広い教養及び総合的な判断力を培い豊かな人間性を育成するようにした。必要な単位を

よくみる よくきく
よくかんがえて

附属幼稚園
幼稚園長
関口 富左

本園は幼児教育の本質を求めて、「よくみる よくきく よくかんがえて」を教育目標として遊びを通しての保育の本質に迫り、短大保育教育の基本的在り方及び幼児教育の本質性を基として今日に至っている。「満三歳児保育」「延長保育」も実施し、園児の通園範囲は広範囲にわたっている。通園バス一台で四コースを実施している。創立以来、卒園記

芸術文化教育の充実
「芸術鑑賞講座」―感性の庭に知の花はさく―

梅右六郎の至芸「土頼」第142回芸術鑑賞講座より

学園が「こころ」の教育、感性の教育として重きを置いたのが、「芸術鑑賞講座」と「教養講座」。学園創設当時、地方に欠けているものとして「芸術文化」をあけ、良きものを学生、生徒へと鑑賞の機会を設けた。音楽、演劇、美術、古典芸能と多様なジャンルか

ら一流の方々を郡山へ招いた。特に、学園創立四十周年記念として建築された「建学記念講堂」にはシアター機能を配した大ホールが誕生し、大編成のオーケストラや歌舞伎、ミュージカル等の舞台公演が可能となった。第七十六回講座のキコ、ハエ団の「白鳥の湖」。

50周年記念 学術講演会



梅原、西澤両氏による学術講演会

各界の著名人による「教養講座」創立当初から開催してきた「教養講座」は、日本人初のノーベル賞受賞者湯川秀樹氏や三笠宮崇仁親王、今道友信氏、茅誠司氏らをお迎えし、示を得た。特に学術講演会として梅原猛氏と西澤潤一氏の対談「学問の行方―人間生活を基として」は、今後の学問のあり方についての示唆に富んだものであった。

50周年記念 学術講演会



梅原、西澤両氏による学術講演会

食生活・栄養研究所「屋上菜園」

豊かに実る旬の野菜——創立六十周年記念事業——

学園の創立六十周年を記念した食生活・栄養研究所の開設に先立ち、食と農の原点を学ぶ「屋上菜園」がこの春、62年館屋上に設置された。そして半年。キャベツ、じゃがいも、紫蘇等の第一期栽培が終わり、現在第



開成理事長が土入れを行う様子

二期の播種、定植分が育っている。

「屋上菜園」は62年館の屋上に長さ二十四m、幅三m、高さ二十五mの枠に囲まれた体験農園。二面が造成された。調理師(高校)、栄養士(短大)、管理栄養士(大学)の食育専門家を養成する本学園にとって、

学生・生徒が作物の栽培を体験することは、野菜が畑でどう育っているのか、食材を誰が、どこで、どう作っているのかを学び、食と農に理解を深める基礎能力の教育につながる。

また、自然との関わり、五感を働かせての取組み、人と人との関係を肌で感じ、感性を磨く目的もある。四月二十四日、食を学

ぶ大学生と短大生、それに教職員が出席して土入れを行い開園した。

菜園の栽培品目は大学の庄司一郎教授を中心にJ・A全農福島の職員と相談して決めた。

春から夏への第一期はレタス、ブロッコリー、きゅうり、トマト、なす、ピーマン、枝豆、じゃがいも、サラダ菜、メロン等十九種目を栽培した。

毎日の水かけ、虫とりは学生が交代で担当。土の飛散を防ぐために防風ネットを張ったり、土の温度を観察したりしながら大事に育てた。その結果、六月頃から順次作物が実り収穫した。同時に栄養成分の変化を調べるため、水洗い後、冷凍後、調理後のデータを取った。また、収穫した野菜は茹でたり、蒸かしたり、炒めたりして試食。市販の野菜との食感の相違などを調べた。



収穫に感動する学生たち

秋に入り、第二期として春菊、白菜、ほうれん草、キャベツ等の植付けを終わった。

安全を確保 甦る 清新の学舎

耐震補強工事終局へ

阪神・淡路大震災の教訓から、学生・生徒、園児が一日の大半を過ごす習、生活の場である施設の安全を確保し、災害から命を守るための本学園耐震補強工事は平成十五年から実施している。安全確保へ教育機関としてはいち早い対応である。

補修工事は附属高校第二体育館から始まり、附属高校普通教室棟、大学家政学館、62年館、本館へと進んだ。さらに高校西棟、附属幼稚園から芸術館を整え、この夏、大学図書館と高校特別教室棟が完了した。工事は粘弾性ダンパーブレースによる制震装置を加える工法で、窓枠や壁に大きな支柱が組み入れられ、上

階の倒壊、崩落に備えた。

また、鉄骨の強化、壁の新設等の一部建材の交換により一層の安全が図られた。



補強された高校東棟



美しく甦った62年館



生まれ変わった本館

また、巨大大防火水槽三基を地下に設置、防火対策とした。これにより、全工事の七五%が完了、家庭寮1・2・3号館と高校特別西棟、高校管理棟を残すのみとなった。

なお、同時にアスベスト使用の有無を調査、芸術館と高校の天井内鉄骨梁に吹きつけ箇所を発見して全て撤

去した。一方、図書館では耐震のほかエレベーターを新設してバリアフリーに対応した。さらに、本館、芸術館、図書館が渡り廊下で連結され、一体化された。

学園創立六十周年に想う



郡山女子大学学友会会長 佐久間 茜

六十年前、学園長先生が女子の高等教育の普及を目指し、ここ開成の杜に学園を創立されて以来、多くの先輩方が年毎に学び、巣立っていかれました。この六十周年記念という輝かしい年に在学できましたこと大変に光栄に、そして誇りに思います。



郡山女子大学短期大学部学友会会長 星 奈菜

私は、学園創立六十周年という記念すべき年に、短期大学部の学生として在籍できますことを誠に喜ばしく思っています。

この開成の地に、女性の高等教育の普及と向上を目指して、学長先生がこの学園を創立されてからの六十

時代とともに

——創立六十周年お祝いの言葉——



郡山女子大学附属高等学校生徒会会長 馬場 侑里

自然と静寂の声に囲まれ、私たちの啓発の場である本学園が創立六十周年を迎えたこと、一生徒として大変誇らしく思います。

学園は「尊敬・責任・自由」の建学の精神のもと、自主・自立できる女性の育成を目的として創設されました。多くの知識や教養を身につけ、社会で活躍すべく充実した教育環境の

戦後の混乱の中で学園が創立されてから現在に至るまで、社会は目まぐるしく変化を見せました。そのようなかで、本学の学生が時代に対応した学問を修め、自立した女性として社会で活躍できるよう考えてくださる学園長先生には感謝の気持ちで一杯です。私も先輩方のように時代に流されず、自分で考え行動する女性になれるよう日々精進していく所存です。

本学園の益々のご発展を心より祈念致してお祝いの言葉といたします。

年という長い年月を改めて感じ、歴史のある学園であることを大変誇りに思います。また、この充実した環境のなかで日々学べる喜びを感じています。

私は本学園の建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」を念頭に置きながら、心身ともに美しく、謙虚な女性として、これからの社会で活躍していきたいと願っています。最後になりましたが、本学のますますのご発展を心より祈念し、お祝いの言葉と致します。

なかで学べることに日々幸せを感じています。

私が六十周年の重みを感じたことがあります。それは、母娘が共に本学を母校としている方がおられること。洋々と流れる時代のなかで、本校で学ぶことに対する誇りが時とともに受け継がれていることに、改めて六十年の時を感じました。また、私たちが本学園の伝統を次代へ橋渡しできるよう思いを新たにしました。

最後に、創立六十周年を節目とし、建学の精神のもと、更なる女性教育の向上と学園のより一層の発展を願ひまして祝辞と致します。

平成17年度 学校法人郡山開成学園 決算報告

① 資金収支計算書 資金収支計算について、その主な内容を報告いたします。

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

科 目	平成17年度予算額	平成17年度決算額	差 異(△)
学生生徒等納付金収入	2,004,000	1,995,943	8,057
手数料収入	42,500	38,350	4,150
寄付金収入	29,000	25,615	3,385
補助金収入	952,300	968,046	△ 15,746
資産運用収入	58,000	75,375	△ 17,375
資産売却収入	100	0	100
事業収入	115,900	125,799	△ 9,899
雑収入	174,300	161,867	12,433
前受金収入	570,000	618,084	△ 48,084
その他の収入	390,813	1,429,244	△ 1,038,431
資金収入調整勘定	△ 880,000	△ 1,024,273	144,273
前年度繰越支払資金	2,609,187	2,609,187	
資金収入の部 合計	6,066,100	7,023,237	△ 957,137

国庫補助金収入が見込みを上回った。

施設関係支出のため、長期定期預金を取り崩しました。

（資金支出の部）

科 目	平成17年度予算額	平成17年度決算額	差 異(△)
人件費支出	2,175,790	2,189,929	△ 14,139
教育研究経費支出	446,000	482,762	△ 36,762
管理経費支出	141,000	139,418	1,582
施設関係支出	884,863	871,865	12,998
設備関係支出	58,402	49,470	8,932
資産運用支出	500,000	400,000	100,000
その他の支出	131,508	131,509	△ 1
予備費	7,900		7,900
資金支出調整勘定	△ 14,508	△ 19,197	4,689
次年度繰越支払資金	1,735,145	2,777,481	△ 1,042,336
資金支出の部 合計	6,066,100	7,023,237	△ 957,137

耐震補強工事による。

② 消費収支計算書 消費収支計算について、その主な内容を報告いたします。

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

科 目	平成17年度予算額	平成17年度決算額	差 異(△)
学生生徒等納付金	2,004,000	1,995,943	8,057
手数料	42,500	38,350	4,150
寄付金	39,000	39,220	△ 220
補助金	952,300	968,046	△ 15,746
資産運用収入	58,000	75,375	△ 17,375
資産売却差額	100	0	100
事業収入	115,900	125,799	△ 9,899
雑収入	174,300	161,867	12,433
帰属収入合計	3,386,100	3,404,600	△ 18,500
基本金組入額合計	△ 953,265	△ 876,964	△ 76,301
消費収入の部合計	2,432,835	2,527,636	△ 94,801

主に資産運用収入と補助金が見込みを上回ったことにより帰属収入は予算を上回った。

主なものとしては、本館耐震補強工事、高校普通教室西棟耐震補強工事、芸術館耐震補強工事です。

主に、減価償却費、修繕費等が増加しました。

（消費支出の部）

科 目	平成17年度予算額	平成17年度決算額	差 異(△)
人件費	2,176,190	2,157,573	18,617
教育研究経費	776,000	863,876	△ 87,876
管理経費	144,500	142,888	1,612
資産処分差額	1,000	5,380	△ 4,380
消費支出の部合計	3,097,690	3,169,717	△ 72,027

当年度消費支出超過額 664,855 642,081

前年度繰越消費支出超過額 426,931 426,931

翌年度繰越消費支出超過額 1,091,786 1,069,012

③ 貸借対照表 貸借対照表について、その主な内容を報告いたします。

貸借対照表 平成18年3月31日現在

科 目	平成17年度末	平成18年度末	増 減(△)
固定資産	10,867,192	10,922,217	△55,025
有形固定資産	7,754,942	7,208,716	546,226
その他の固定資産	3,112,250	3,713,501	△601,251
流動資産	3,130,734	2,901,313	229,421
合 計	13,997,926	13,823,530	174,396

【有形固定資産】土地・建物・構築物・機器備品・図書・車両

【その他の固定資産】借地権・電話加入権・有価証券（貸付債権）・特定資産

【流動資産】現金・預金（定期預金・普通預金）・未収入金・前払金

（負債の部）（基本金・消費収支差額の部）

科 目	平成17年度末	平成18年度末	増 減(△)
固定負債	1,199,090	1,231,445	△32,355
流動負債	774,399	802,531	△28,132
計	1,973,489	2,033,976	△60,487
基本金	13,093,449	12,216,485	876,964
消費収支差額	△1,069,012	△426,931	△642,081
合 計	13,997,926	13,823,530	174,396

【固定負債】退職給付引当金

【流動負債】未払金・前受金（入学金・授業料等）・預り金（家族会・学友会・生徒会・税金等）

【基本金】学校法人の諸活動に必要な継続的に保持すべき資産で、帰属収入から組み入れた金額

参考

正味資産	12,024,437	11,789,554	234,883
減価償却の累計額	5,085,909	4,753,919	331,990

※正味資産＝資産－負債

④ 財産目録総括表 財産目録について、その主な内容を報告いたします。

平成18年3月31日現在

項 目	金 額	備 考
基本財産	7,766,846	
土地	180,124.30㎡	2,617,832
建物	50,883.83㎡	4,062,483
構築物	294点	177,272
教育研究用機器備品	13,885点	436,736
その他の機器備品	468点	3,228
図書	141,032冊	449,480
車両	6台	7,899
建設仮勘定		13
水道施設利用権		8,005
借地権		980
電話加入権		2,918
運用財産	6,231,080	
現金・預金	2,777,482	預入先 東邦銀行他2行
有価証券	1,203,350	外国債券等
出資金	9,951	福島県私立振興基金協会等
長期定期預金	1,700,000	預入先 東邦銀行他2行
退職金引当特定資産（学園年金積立金）	186,545	預入先 明治安田生命保険相互会社他1社
未収入金	353,241	退職金財団交付金等
前払金	11	
その他の資産	500	
資産合計	13,997,926	
固定負債	1,199,090	
退職給付引当金	1,199,090	退職給付に係る見積債務額
流動負債	774,399	
未払金	19,187	
前受金	618,084	平成18年度生入学金等
預り金	137,128	
負債合計	1,973,489	
差引正味財産	12,024,437	

学校法人郡山開成学園は平成十七年度決算について、監査法人の監査を受け、理事會、評議員に諮り、承認を得た。

その概要は次のとおりである。

平成十七年度消費収支計算書において、消費収入合

計より消費支出合計が大きいため、当年度消費支出超過額は六四二、〇八一千円となっている。その主な理由は本館耐震補強工事、高校普通教室西棟耐震補強工事、芸術館耐震補強工事等により、基本金組入れ額が増加したものである。

従って、平成十七年度の消費支出は、当年度消費支出超過額六四二、〇八一

千円になったが、平成十六年度決算の繰越消費支出超過額は四、九三二、〇九二円を加え、翌年度繰越消費支出超過額は、一、〇六九、〇一二千円となった。

一方、貸借対照表では、資産に関しては、将来に備え、教育、研究、施設等を充実させるため、資金を計画的に積み立て、安全で有利な資産運用に努めている。

また、負債に関しては、退職給付引当金の計上、並びに次年度授業料等前受金、期末未払金等以外には、金融機関等からの借入金もなく、健全な財務状況にある。

平成十七年度末の正味資産は、前年比一、三三四、八八三千円増加し、一、〇二四、四三七千円になっており安定的に推移している。

短期大学部保育科が「幼児教育学科」へと改編

短期大学部保育科が平成十九年度からコース制を導入する予定。申請中であるが、二つのコースが設定される。改編の目的は学習の内容をより明確にすること。豊富なカリキュラムと優秀なスタッフによる適格指導で人間教育を行う。

① 幼児教育学コース

幼稚園教育を専門的に学び、幼



個別相談コーナーで熱心に質問を繰り返す参加者

平成十九年度大学・短大入学者選抜実施内容説明会が六月三十日、本学で開催され、県内外の高校から進学担当の教諭約九十名が参加した。全体会では初めに関口富左学長が挨拶し、建学の理念と女子高等教育拡充の方針を述べた。

次いで、各学科、専攻の主任教授の紹介があり、田村入学事務部長より平成十九年度の募集選抜概要が示された。

この中で、短大保育科の改編により名称が来春から「幼児教育学科」と変わることの説明があった。

午後からは、出身学生との面談や授業参観、施設見学等に移ったが、出席者の関心は各学科、専攻との個別相談にあり、コーナーは順番待ちと

稚園教諭のスペシャリストをめざす。（定員五十名）

② 幼児教育・保育学コース

保育学を幅広く学び、保育士資格と幼稚園教諭の二つの資格を取得する。（定員百名）

選抜に当たっては、健康で目的意識を持ち、明るく、学ぶ意欲があることを求める。もちろん基礎学力も必要だが、幼児との会話に必要な国語力をとりわけ重視する。

さらにAO生入学者の選抜方法が変更。前年までは、面接を一度行っていたものを一度にしたこと。このため出願書類として一、エントリーシート、二、願書、三、調査書を求める。選抜では面接を重視しながら書類等も精査し総合判断で可否を決める。

受付は五回に分けてあるが、募集人員に達した科はその回で受付を終了する。

早めの応募が望ましい。

募集要項の見方〔解説〕

従来より変わった点は、短大保育科を改編し、科名を「幼児教育学科」とすること。定員は変わらないが百五十名を幼児教育学コース五十名と幼児教育・保育学コース百名へ分けたこと。選抜に当たっては大学・短大とも募集人員を各選抜制度別に分け、明記したこと。また、要項に配点一覧を記載し志願者への手引きとしたことが新しい。

平成十九年度 大学院・大学・短期大学部 入学者選抜実施要項発表

なつた。選抜に関わる具体的な対応、資格取得、就職状況、入学金等々で、入学希望者を送り出す側としてより詳しい情報を得るために、メモを取りながら熱心に質問していた。

オープンキャンパスだから わかる 見えてくる 私の未来

大学・短大

をアピールした。

一方、短期大学部では家政科福祉情報専攻が「高齢者の介護実習」として実際にベッドや車椅子での看護や介護について実践を披露した。家政科食物栄養専攻では、糖尿病食の調理を行い試食の時を持った。来春から幼児教育学科として改

編を予定している保育科は、幼稚園教諭や保育士に必要な歌、リズム遊び、造形を学習した。生活芸術科は絵画、デザイン、彫刻、CGアートに分かれて実技指導を受けた。音楽科はピアノと声楽のレッスン風景を見学。文化学科は「縄文土器との対話」と題して考古学を学び土器の拓本取りを体験した。お昼は学食自慢のカレーライスを試食したあと、施設見学と個別相談に分かれた。個別



大ホールへ会場を移しての開会式

今年のオープンキャンパスには六百三十名を超える参加者があり、会場を小ホールから大ホールへ変更しての開会式となった。オリエンテーションでは、関口学長が歓迎の言葉を述べ、創立六十周年を迎える学園の歴史と建学の精神を語り、伝統の学風に理解を求めた。

このあと、体験授業へと会場を移した。大学・人間生活学科はパネルや展示品で学科を紹介したが、本年度から新設の建築デザインコースでは家屋の模型やインテリアデザインコーナーが賑わった。

大学・食物栄養学科は「管理栄養士とその役割」についての講義があり、管理栄養士養成機関としての存在



個人面接で参加者と対応する教職員

談に分かれた。個別相談では選抜の具体的な内容や対応に質問が集中した。オープンキャンパスだからわかる学園の規模、学習内容、環境。対応した教授や係員は高校生の真剣な眼差しに案内の手応えを感じていた。また、遠方から参加した家族は「家庭寮」を見学、管理状態の説明を受けて寮生活を想定していた。なお、第二回は九月三日に行われ五百二十名が参加した。

附属高校の第一回体験入学会

前日までの豪雨が止み、真夏の太陽が雲間から照らす日となった七月二十九日と翌三十日の二日間、附属高校の平成十八年度第一回体験入学会が行われた。

中学生とその保護者、それに教員約四百六十名が参加。開会式では本校の教育内容について説明を受けたあと、ビデオ上映で学園の概要を理解し、平成十九年度の入学志願者選考要項について詳しい説明を受けた。そして、マーチングバンド部の歓迎演奏に感激し、拍手が止まない程であった。



食物科「手作りキッシュ」の実習

体験入学は国語、数学、英語、情報、音楽、美術、食物、それに部活動で実施された。希望する教科に参加した中学生は真剣な眼差しで教師の授業を受け、高校生を体験した。

食物科特製のカレーライスで昼食をすませたあと、音楽科と音楽部生によるミニコンサートを鑑賞。閉会式では郡山第一中学校と第七中学校の代表が体験の感想を述べ、高校生活に思いを馳せているようであった。

なお、第二回体験入学会は十月二十九日(日)に予定している。



情報「ポストカード」作成に挑む

附属高校 十九年度 入学者選抜 概要

募集定員は女子のみ四百名。

選抜は推薦生と学力選考生に分かれるが、推薦生の特待生は十一月八日から募集を開始。十一月九日まで出願を受け付ける。選考日は十一月十五日。十二月に入ってから高連けい生とAO生(自己推薦生)の出願を受け付ける。期間は十二月四日から五日まで。

選考日は中高連けい生が十二月九日。AO生が十二月十三日となっている。音楽科と美術科を希望する場合は実技がある。課題があるので、事前に要項をチェックする必要がある。学力選考生は一月十日から願書を受け付け、十一日に締め切る。必着なので、要チェック。

本校は①本学園の建学の精神を理解し②本校のみを志願③勤勉④心身共に健康で、欠席の少ない⑤他人を思いやる優しい感性をもつ生徒を望んでいる。

附属幼稚園 十月一日より願書受付

本園は保育全体を通して「よくみるよくきくよくかんがえて」を教育目標として、健やかで、明るく、素直な、かしこい子どもに育てている。

本園の募集定員は、満三歳児、三歳児四十名。四歳児八十名、五歳児八十名の計二百名。募集に当たって、希望者の質問等お問い合わせは電話か直接面談にてお受けしている。

また、本園の教育目標を理解するため、九月二十四日に入園説明会を開催した。

その他に、願書用紙の配布は九月十日から行い、願書受付は十月一日から始めている。定員になり次第締め切る。ので、早めのお申し込みが望ましい。なお、面接日は十月二十四日の日曜日に行う。

お悔み申し上げます
竹川重男氏(短期大学部教授・郡山女子大学図書館館長)
八月二十五日、多発性骨髄腫のため死去されました。七十四歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

木もれ陽

本学園にとって創立六十周年目に当たる今年、は、還暦の「節目」と同時に将来への新たな「決意」の時である。

松尾芭蕉は、元禄二年(一六八九)三月二十七日(陽暦五月十六日)、弟子曾良を伴い「おくのほそ道の旅」に出立する。以後北上し、四月二十日(陽暦六月七日)、福島県白河の関に到着する。江戸深川を出立してから旅心不安な日々を過ごして来たが、白河の関にさしかかるとようやく旅の心も定まった。芭蕉にとっての「節目」と「決意」がここにある。

この関は古来より多くの歌人が心を寄せてきた所であり、中でも平兼盛、能因、源頼政、藤原定家らが歌った和歌を次々と思ひ浮かべ、尊崇するこれら古の歌人たちと、この関を媒介に心の交流を持つ。これら歌人によって歌われた秋風の音が今も耳に聞こえるようで、昔の紅葉が目に飛び、そのような美しい秋の景色が今の初夏の景色と重なって、青葉の梢も一層

感銘深いものとなる。今、真っ白い卯の花が咲き乱れているのに、茨の花も白く咲き加わり、まるで雪の中に関を越えて行くような気持ちささえる。

多くの名歌が生まれた由緒あるこの関を越えるに際して古人は、敬意を表し、冠をかぶりなほし衣服を改めたということがある。そこで次の句が生まれた。曾良 卯の花をかざしに関の晴着かな 曾良(古人は、この関に敬意を表して衣装を改めたというが、私たちはその用意もないのでせめて卯の花を折って髪に挿し、晴着の代わりとしよう。)

ここは、「おくのほそ道」中の一つの山場であり、ここにはそれまでの旅の「節目」と以後の本格的な旅への「決意」がある。

家庭家族が崩壊の危機に瀕して喘いでいる現在、本学園が歩んできた人間本質への学問探求と人間教育の重要性に基づき新たな「決意」が今、学園に漲っている。

芭蕉に倣って、本学園に咲く美しい花々からひと花手折って髪に挿し、学園創立六十周年を心から寿ぎたい。(均)